



報 大 館 お お だ 大

1月1日号 (No.312)

編集と発行 — 大館市役所 (電話) 49-3111
発行年月日 — 昭和57年1月1日
発行日 — 毎月1・16日
広報紙は、行政協力員を通じて全世界に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。



1982年 おめでとう

1982年に大きくはばたく ~成童小葛原分校の皆さん~



市議会議長
菅原 一 雄

新年おめでとう申し上げます。
昭和五十七年は、国の行財政改革の嵐をまともに受ける地方自治体にとっては、厳しい試練の年と言えるでしょう。住民福祉の諸施策を頂点に、地元経済の活性化、地産産業の振興、冷害という手痛い被害を受けた農業経営などを考えるとき、国の行財政改革の名のもとに市行政の沈滞化は許されません。地方の時代を主体的に考え、地方自治体なりの独自の細やかな選択はもちろん、住民福祉の切捨てにかならないよう議会と行政当局が一体となり努力したいと存じます。
市制施行三十周年を越え、その長い歴史から得た豊かな知識と経験を、この苦況の中に生かすことこそ、大館市民の心意気でもあると思います。
市民の皆さまのますますのご健康とご多幸を心からお祈り申しあげまして、年頭のごあいさついたします。

新年のごあいさつ

あけましておめでとう申し上げます。
不況克服を命題に市民の皆さまから深いご理解、ご協力をいただき懸命の努力を重ねてまいりましたが、一自治体の限界と私の力不足から、成し得なかったことをお詫び申し上げます。不況は経済活動の現象であり社会がつくり出しています。その社会は私たちが人間で構成しています。とすれば私たちの力で不況克服は可能ではなくありません。
私たち人間は先行き、希望と展望が開ければどんな創意も行動もできます。その活力が経済活動を活発にするのです。展望を開く、これこそ新年の課題でありましょう。市制三十周年を越え、基本構想を市民一人ひとりの生活と関連をもたせまい進めたいと存じます。
今年の干支はイヌということで秋田犬の本場である大館の年でもあります。健康と行動と連帯で活路を開く年にいたしましょう。



大館市長
畠山 健治郎